

# 正念寺だより

2014年  
6月1日  
発行NO.169

五月二十五日 正念寺第21回 落語会  
&コンサートは四〇名の大盛況！

桂鯛蔵さんは『牛ほめ』、桂団朝さんは相撲ネタの『花筏』に開場は爆笑。コンサートはオペラ歌手の森理奈さんが熱唱。住職のオープニングトークもちよつとはウケておりました。



関西災害支援ネットワークの東北震災支援物産展は、23,200円の売り上げ。募金は900円でした。御協力ありがとうございました。



## 行事予定

- 6月5日(木) 3:00PM~  
6月 聞法会  
講師 護城 一哉 師  
福井市西雲寺若院
- 6月19日(木)  
綾小路きみまろライブツアー  
お陰様で満席札止め！
- 7月27日(日) 3:00PM~  
7月 聞法会  
講師 物部 修道 師  
京都市 昌蔵院住職
- 8月15日(金) 9:00AM~  
孟蘭盆会・戦没者追弔法要

「さるべき業縁のもよほさば、いかなるふるまひもすべし」。 (歎異抄・十三章) 親鸞聖人は「どうしてもそうしなくてはならないという縁に会えば、人間はどのようなことでもします。」と告白されています。真面目でおとなしい子供が、非行グループに誘われて「万引き」をすることがあります。また、最近もありましたが、老若介護に疲れ果て、家族を殺める事件など、この典型かもわかりません。

の取材に近所の人は、「まさかあの人がこんな事件をおこすなんて」とおどろきます。親鸞聖人は、縁によっては何をしでかすかわからない人間の弱さ、愚かさを「恥ずかしい」こと「悲しきかな」と痛みをもつて受けとめられました。この私も、人に見られている時と、見られていない時との縁の違いで、立ち振る舞いも変わってきます。お恥ずかしいことです。だからこそ、私のことをすべて「見てござる」聞いてござる「知つてござる」仏様がおられることがありがたいのです。